

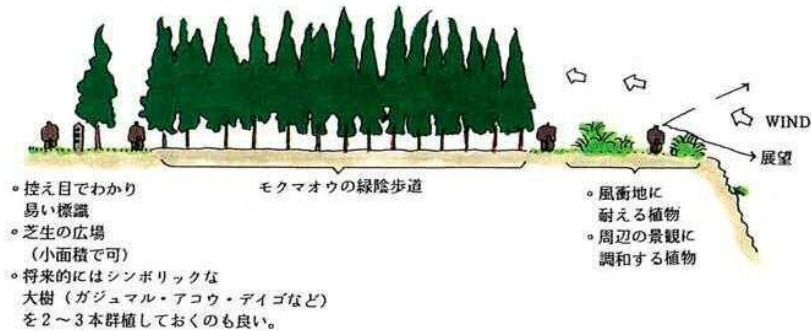
(サブテーマ)

文化を活かす

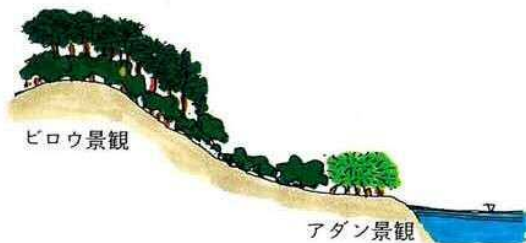
(展開項目)

○地域から学び、地域になじむ

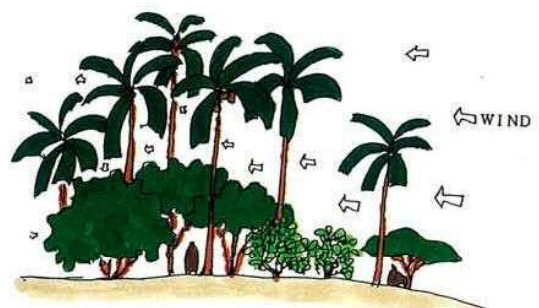
(キーワード)	(配慮すべき事項)	(参照)
〔地域特性の把握〕	1. 海岸線の整備においては背後地の土地利用特性や集落の立地構造などを把握したうえで、海岸線と背後地とのつながりに配慮する。	P21 アサイン3(3) P126 プロセス1(3)
〔景観資源の活用〕	2. 自然条件の厳しい集落や耕作地に対しては、海岸整備において防潮・防風林的な植栽を行うなど、地域の環境特性に配慮する。	
〔海岸沿の景観誘導等〕	3. 周辺の景観資源を海岸景に取り込み、活用する。 〔景観資源〕・周辺の山並、樹林・樹木、特殊な海岸地形、奇岩・夕日、広がり景、島陰、など。	P22 アサイン3(6)
〔海岸沿の景観誘導等〕	4. 景勝地等の海岸景域においては、周辺地域との連携を図りながら、建築物等の景観阻害要因が生じないように、良好な景観形成に向けて周辺の景観を誘導していくことを検討する。	P20 アサイン3(2)



<ピロウ・アダンの多層植栽>



<ココヤシ主体の多層植栽>



●立地に応じた海岸植栽の形成。
 (沖縄県観光修景緑化計画 S.54.2 沖縄県)

施設類型	4. 海 岸	海 岸 3
------	--------	-------

(サブテーマ) 文化を活かす	(展開項目) ○文化を受け継ぎ、育む
-------------------	-----------------------

(キーワード)	(配慮すべき事項)	(参照)
〔伝統行事の場の確保〕	1. 浜下り、ハーリー、航海安全、海鎮めや大漁祈願などの伝統風物・祭祀の場として確保・保全するとともに、必要に応じその場にふさわしい整備を検討する。	

(サブテーマ) くらしを彩る	(展開項目) ○開かれた場をつくりだす ○いきいきとした場をつくる
-------------------	---

(キーワード)	(配慮すべき事項)	(参照)
〔海岸線の開放〕	1. 海岸線を人々の身近な公共の場として開放する。	P22 デザイン3(6)
〔背後地とのつながり〕	2. 背後地から海辺に円滑に近づけるよう、海岸線と内陸地域とのネットワークに配慮する。 3. 海岸護岸の背後地とのすりつきは、できるだけ緩やかなものとなるよう横断面形態を工夫する。	P21 デザイン3(3)
〔眺望の場所〕	4. 海岸全体が見渡せる場所や良好な景観視点場を活かし、眺望スポットを整備する。	P20 デザイン3(2)
〔適度なスケール〕	5. 構造物は固く単調な印象を柔げるため、素材や形態の構成を工夫し、スケールを分割する。	P20 デザイン3(2) P33 デザイン6(2)
〔親水空間の形成〕	6. 地域の人々や来訪者が豊かな海岸景を享受し、散策したり休憩できる快適なオープンスペースを要所に設ける。 7. 背後で公園・緑地等が設定される場合は、それらと海岸線との一体的な空間整備を図る。 8. 海岸線の構造物はできるだけ親水性に配慮し、自然石や木(ボート)等の水辺の自然になじむ素材の使用を検討する。	P22 デザイン3(5) P22 デザイン3(6) P24 デザイン3(10)
〔多様な活動の場〕	9. 海岸線をまつりやイベントにも活かされる空間として整備する。 10. 海岸線が人々の様々なレクリエーションの場となるよう整備する。	P22 デザイン3(5)



●海を舞台とした代表的な伝統行事ホリ(爬竜船競漕)
(糸満市)



●海岸の防潮林や砂浜の芝地は、直射日光や照り返しをやわらげ、憩いの場となっている。(伊是名島、伊是名)



●生態環境として良好に保たれた海辺で、伝統行事としての浜下りを楽しむことができる。
(与那原町)



● 海岸沿の親水テラス。 (名護市、国道58号)



● オープンな海浜公園の加ムド。 (シガール)



● 岬や 浜は眺望には絶好の場所となる。
(国頭村、辺戸)



● 水際と一体となった広場。 (石川市、白浜公園)



● 自然風の石垣や、多様な施設要素を配すことで護岸沿の景観を親しみのあるものとする。
(平良港コスタリゾートの景観、H.6.3、沖縄総合事務局)

●景観形成の視点

港湾は、大規模な物流を支える産業の拠点であると同時に、海洋に囲まれた島嶼県沖縄の玄関口であり、海を通じた交流と伝統を継承する場である。また、都市空間と海洋が接するウォーターフロント(水際)空間となっている。海への眺望と海上からの印象に配慮し、亜熱帯沖縄の玄関口にふさわしい港湾景観の形成に努める。

(サブテーマ)

自然を生かす

(展開項目)

- 自然を守り、生かす
- 自然を回復し、創り出す

(キーワード)

(配慮すべき事項)

(参照)

〔自然環境の保全〕

1. 海域の環境や生態系をできるかぎり保全する。
〔環境・生態系要素〕・リーフ、珊瑚礁、干潟、潮流、海域の水質、
・水際や海域の生物とその生息環境、など。

P.20
デザイン3(1)

〔人工海岸線の調和〕

2. 人工の海岸線の整備に際しては、周辺の自然景観との調和に努める。

P.20
デザイン3(2)

〔自然の復元・再生〕

3. 人工の海岸線の整備に際しては、養浜や渚の形成など、自然海岸線の復元、再生を検討する。

〔豊かな緑の創出〕

4. 港湾区域内では、オープンスペースをはじめとして、施設周辺や護岸沿いに緑化をすすめ、連続的な緑の形成を検討する。
5. 港湾区域の緑化・植栽に際しては、自然条件を考慮し、「4. 海岸」と同様に樹種の選定や植栽手法に配慮する。

P.16
デザイン2(3)



●海岸の緑地帯が背後の都市景観を際立たせる。
(シカゴ・ホール)

■海水浴のイメージパース



●埋立地の水際の部分でも周辺の自然との調和に配慮する。
(平良港コスタリゾートの景観、H6.3、沖縄総合事務局)

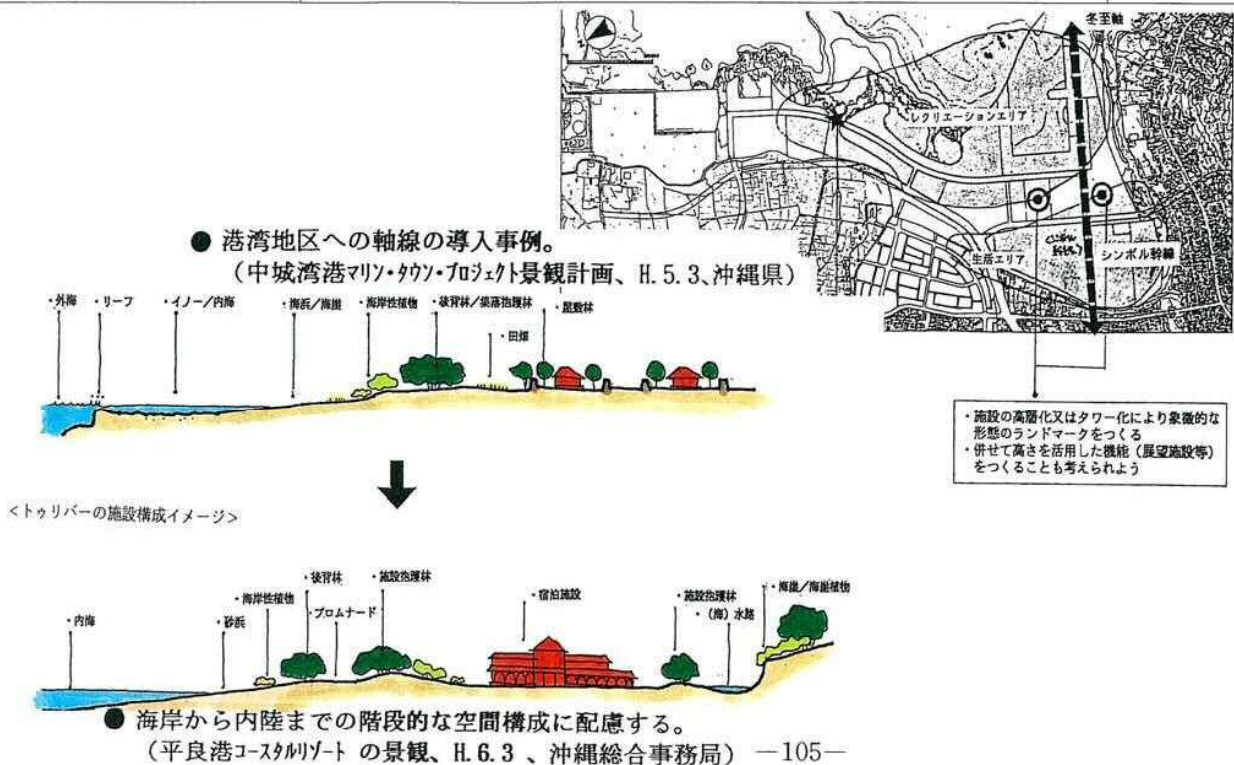
(サブテーマ)

文化を活かす

(展開項目)

- 地域から学び、地域になじむ
- 文化を受け継ぎ、育む

(キーワード)	(配慮すべき事項)	(参照)
[地域特性の把握]	1. 港湾地区の整備においては、背後地の土地利用特性や都市構造を把握したうえで、港湾地区と背後地とのつながり方や港湾地区の利活用のあり方、機能空間の設定などに配慮する。	P126 プロセス1(3)
[地域の顔づくり]	2. 新しい海岸線の形成においては、地域になじんだ海岸線の形成に努める。	P22 デザイン3(5)
	3. 地域や都市の海の玄関口として象徴的な顔をつくる。	
	4. 象徴的なターミナル施設や海を跨ぐ橋梁などにより、地域の海のゲート景観を形成させる。	
	5. 重要港湾や地方港湾、 marina など、地域の特性に合わせた顔づくりに配慮する。	
[景観資源の活用]	6. 周辺の景観資源を港湾景観に取り込み、活用を図る。 [景観資源] ・岬、崎、周辺の山並み、背後地の都市景、 ・島影、夕日、ランドマークとなる建築、橋梁など。	P22 デザイン3(6)
[歴史資源の活用]	7. いにしへの歴史的・文化的港湾施設の保存・活用を図るとともに、場所に依じて、港湾景観に歴史的・文化的なイメージを演出する。 [対象となる歴史的・文化的港湾施設] ・浮き道、浮き島、長虹堤、三重城、など。	P31 デザイン5(5)



(サブテーマ)

くらしを彩る

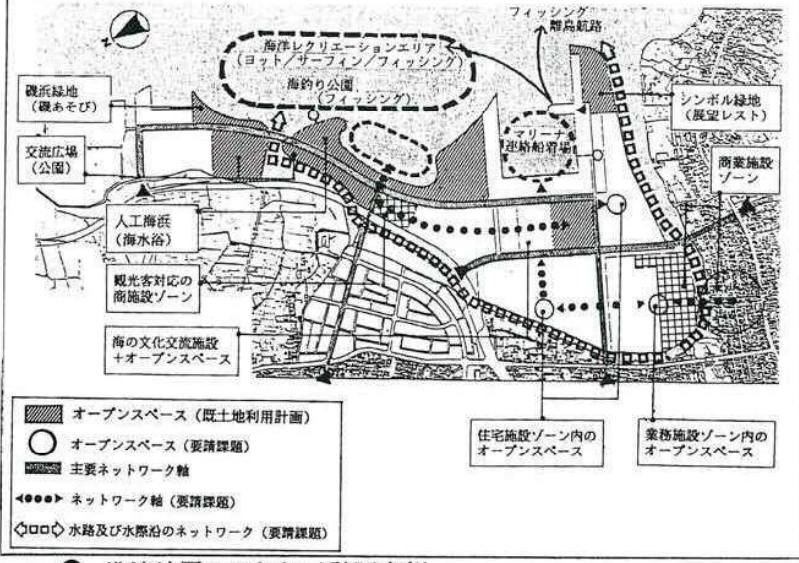
(展開項目)

- 開かれた場を創り出す
- いきいきとした場をつくる

(キーワード)	(配慮すべき事項)	(参照)
〔ゆとり空間の確保〕	1. 公園・緑地、広場、歩行者道等のオープンスペースをゆとりを持たせて整備する。	
〔水際とのつながり〕	2. 水際線をまとめた規模の親水空間として開放し、背後地や港湾地区内から水際まで人々を円滑に導く歩行者軸を設ける。 3. 港湾地区内では、主要なオープンスペースや公共性の高い施設が歩行者軸によって有機的に結ばれるよう配慮する。	P ^{2.2} テ ^{2.2} イン3(5)
〔開かれた場所づくり〕	4. 主要な公共利用施設は、水際や、歩行者軸、広場などの人々が多く集まる場所に向って開かれた配置・形態とし、港湾空間内の場所の広がりとながりに配慮する。	P ^{2.2} テ ^{2.2} イン3(5)
〔背後地とのつながり〕	5. 背後地と境界の開口部は、港湾空間へ近づき易く開放的なものとする。 6. 機能のうえで、閉鎖が必要な境界部においては、周辺からの景観に配慮し、植栽等で修景を図る。	P ^{2.2} テ ^{2.2} イン3(5)
〔眺望の場所〕	7. 港湾全体が見渡せる場所や良好な視点場を活かし、眺望スポットを整備する。	P ^{2.2} テ ^{2.2} イン3(6)
〔適度なスケール〕	8. 港湾区域が漠然とした広がりのある空間とならないよう、景観の仕切りやまとまりに配慮し、建築物や緑の配置構成によって空間を分割する。 9. 海岸法線は既存の海岸線との調和に配慮し、単調で長大な直線的景観とならないよう検討する。 10. 護岸等の構造物は、固く単調な印象を柔げるため、素材や形態の構成を工夫し、スケールを分割する。	P ^{3.3} テ ^{3.3} イン6(1)
〔めりはりのある景観〕	11. 平坦で単調な地形となりがちな港湾埋立地では、できる限り要所では公園緑地等で土地の起伏をつくり、めりはりのある景観形成を検討する。 12. 建築物のシルエット(輪郭線)の変化や連続する緑の樹冠によって、めりはりのある景観を形成させる。 13. 景観資源を活用した景観ノード(結節点)の形成や道路軸でのピスト(通景)の創出など、変化に富んだ港湾景観を形成させる。	P ^{2.7} テ ^{2.7} イン4(2) P ^{1.6} テ ^{1.6} イン2(3) P ^{3.5} テ ^{3.5} イン7(1)
〔快適なオープンスペースの形成〕	14. 港湾区域内では、緑豊かなオープンスペース(広場)を積極的に整備する。 15. オープンスペース内や水際の構造物はできるだけ親水性に配慮し、自然石や木(ボート)等、水辺の自然になじむ素材の使用を検討する。	P ^{1.5} テ ^{1.5} イン2(2) P ^{4.2} テ ^{4.2} イン10
〔多様な活動の場〕	16. 祭りやイベントの場、また様々なレクリエーションの場として港湾空間を整備する。 17. 港湾機能との調和を図りながら、コンッション機能や居住機能等も付加した総合的な港湾空間を整備し、人間味のある活発な港湾景観を形成させる。	

<ネットワーク形成指針>

- ・今後各施設用地ゾーン内に配される予定の各公園や広場を、緑道やモール、歩行者専用路などで有機的にネットワークする。
- ・水際に公園や緑道を配し、レクリエーション・歩行者ネットワークを形成する一助として活用する。



● 港湾地区へのネットワーク計画事例。
(中城湾港マリノタウンプロジェクト景観計画、H. 5. 3、沖縄県)

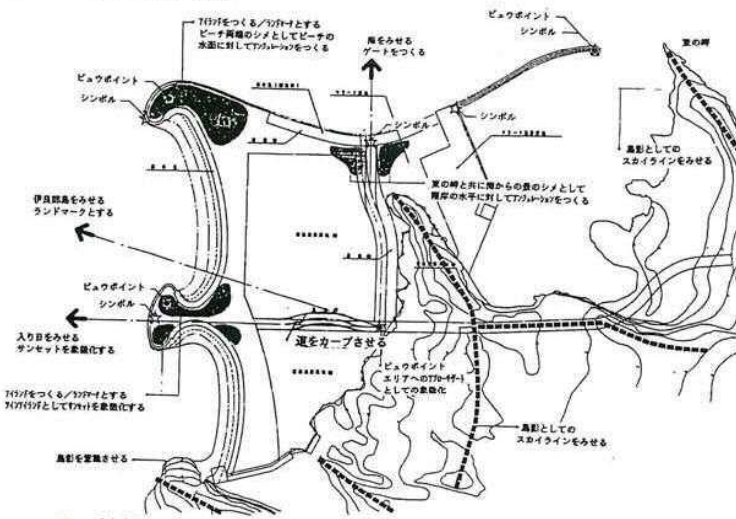


● オープンスペースとして整備された水辺は、多くの人々によって様々な活用される。
(シブサ-ル)



● 海際に緑豊かなオープンスペースを形成する。
(那覇市、若狭)

● 海城からのみえ及びビューポイントの設定

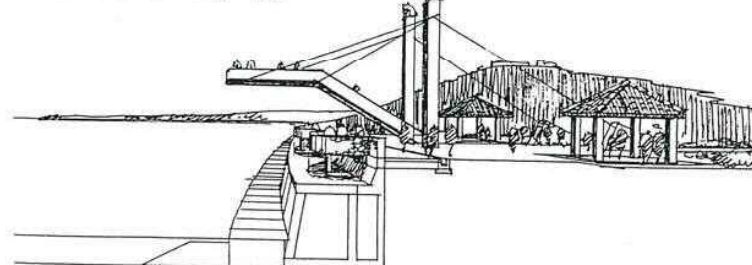


● 軸線や、シンボルなど、埋立地全体の景観のフォーメーションに配慮する。
(平良港ユースタリゾートの景観、H. 6. 3、沖縄総合事務局)

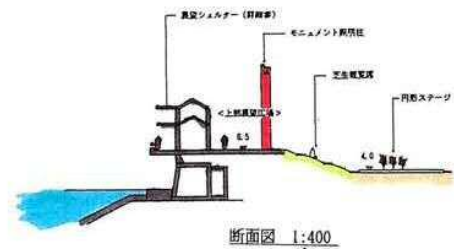


● 親水型防波堤
従来の波浪防御機能に加えて、防波堤上での魚釣りや散策等に適した構造とすることによって、人々が海と親しみ、憩い、遊ぶことができる。
(名護市 21世紀の森公園)

■ サンセットステージイメージ図



● 眺望の場所づくりは、ドラマチックな空間体験を可能とする。
(平良港ユースタリゾートの景観、H. 6. 3、沖縄総合事務局)



● 内陸からウォーターフロント への空間の移行を演出する。
(平良港ユースタリゾートの景観、H. 6. 3、沖縄総合事務局)

●景観形成の視点

ダムや貯水池は、自然の中におかれる大規模な施設であるため、特に周辺の自然環境との調和を重視する。また、水面や水辺などの環境資源の活用を図り、自然環境と一体となった魅力ある景観を創り出す。

(サブテーマ)

自然を生かす

(展開項目)

- 自然を守り、生かす
- 自然を回復し、創り出す

(キーワード)

(配慮すべき事項)

(参照)

〔自然環境の保全〕

1. ダムや貯水池は、整備による樹林の喪失や整備後の水量調節により、周辺の流域の生態系への影響が考えられる。こうした環境に与える影響を把握したうえで、自然環境の保全に配慮した整備を図る。

P.2³
テーマイン3(8)

〔自然環境との調和〕

2. 地形との調和を図るなど、自然の中の人工構造物として周辺の自然景観との調和に配慮する。

〔自然の復元・再生〕

3. 土地造成等によって生じた法面等、造成地への緑化を検討する。また、周辺の緑との連続性を確保し、緑化植栽は周辺植生との調和に配慮する。

P.2⁶
テーマイン4(5)
P.3⁷
テーマイン8(1)

(サブテーマ)

文化を活かす

(展開項目)

- 地域から学び、地域になじむ

(キーワード)

(配慮すべき事項)

(参照)

〔地域らしさの表出〕

1. 堤体や付属施設等に対して、素材や形態面で沖縄らしさや地域の特徴の表出に努める。

P.2⁶
テーマイン4(1)
P.3⁰
テーマイン5(2)
P.4²
テーマイン10
テーマイン11

(サブテーマ)

くらしを彩る

(展開項目)

- 開かれた場を創り出す
- いきいきした場をつくる

(キーワード)

(配慮すべき事項)

(参照)

〔眺望の場所〕

1. のびやかな水辺や堤体のひろがりをもつダムや貯水池は、それ自体が景観資源である。人々が雄大な景観を享受できるように施設内に眺望スポットを整備する。

P.3⁵
テーマイン7(1)

〔豊かな親水空間の形成〕

2. ダムや貯水池の豊かな景観を活かして、水辺環境とのふれあいの場やレクリエーション施設などを一体的に整備し、ダム空間の多目的利用を図るとともに快適なオープンスペース(親水空間)を創出する。

P.3⁸
テーマイン8(2)



● のびやかな水面と堤体のひろがり、それ自体が景観資源となる。(石垣島、底原弘)



● 貯水池の堤体が緑の大地を創出している。(シガホ-ル)



● 弘周辺空間を活用し自然レクリエ-ション拠点とすることで、施設のイ-ディ-ティ-ブを図る。(億首ダム下流整備計画 H.3.3 沖縄総合事務局)



● 堤体や付属施設のデザインを配慮している。(漢那弘)



● 弘周辺の造成法面緑化。(座間味ダム)



● 貯水池は公園として一体的に整備されている。(シガホ-ル)



● 弘周辺法面を緑化ブロックで整備している。(那覇市、金城弘)